

「診断時から骨転移を有する前立腺癌の臨床的検討」のお知らせとお願い

## 1. 研究の対象

2003年1月から2017年2月までの間に防衛医科大学校病院泌尿器科において前立腺癌に対する生検が施行され、骨シンチ検査で転移の診断を受けた方

## 2. 研究目的・方法

骨転移を有する前立腺癌は臨床病期Ⅳ期、5年生存率は4割程度と報告されており、一般的には臨床病期Ⅰ期、Ⅱ期の前立腺癌の5年生存率癌9割前後である事を考慮すると極めて予後不良です。しかしながら、不均一性が転移性前立腺癌の特徴の一つであるためその生存期間にはばらつきが大きく、予後不良因子は未確立であるため予後不良患者の特定を目的とした患者の層別化の確立が待ち望まれています。近年、転移の多い（実質臓器への転移もしくは多発性の骨転移）症例に対してドセタキセルを初期ホルモン療法に追加する集中的治療が注目を浴びている一方、集中的治療、集学的治療に適した患者群像は明確ではありません。集中的治療、集学的治療を必要とする患者群の特定は前立腺がん治療において最も必要とされながら未解決の課題であります。本研究は予後不良患者の特定を目的に患者の層別化方法を確認するため防衛医科大学校病院で診断時から骨転移を有する前立腺癌の臨床的検討を行います。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり、投薬をしたりすることはありません。これまでの外来および入院時の既存資料（主にカルテ）のみを用いて調査をする後方視的研究ですので、患者さんに直接、本調査へのご協力をお願いすることはありません。この研究では、患者さんが特定される情報をいただくことは無く、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。研究結果をまとめて専門の学会や学術雑誌に発表する際にも、患者さんのプライバシーは保護されます。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

連絡先：防衛医科大学校病院泌尿器科

田崎 新資

Tel：04-2995-1511(内線2392)

研究責任者：

防衛医科大学校 泌尿器科学講座 田崎 新資